教育かわら版

こんにちは教育委員会です ふたたび

№１４６
令和２年９月２日発行
今金町教育委員会の会

一日職場を空けた翌日、机上にあるだろう決裁文書も気になって少し早く家を出ました。前日に続いて暑い日でしたが、空も青空、心もどことなくほのぼのと･･･。そんな朝になりました。

車を動かしてすぐ視界に入ったのが教え子の女子高生。自転車に乗って、制服でなく体操着で。大きくなったなあ。懐かしいなあ。しばらく話してないなあ。何か行事があるのかなあ、と。

その日の教頭会議で聞いたのは、高校が日当たりが良すぎてものすごく暑いので、天気予報から、３日間体操着登校としたとのこと。熱中症予防。さすがです。

国道に出ると、いつも会う子とは違う小中学生の姿。この時間帯になると歩いている子も多く。一人で黙々と。そして、話し声が聞こえるような明るい表情で･･･。友だちを見つけて駆け寄る姿。たったそれだけのことなのだけれど。

うれしいなあ。今日も仕事が頑張れそう、と。

教育委員会事務局Ⅲ

中断していた教育委員会事務局の紹介を。

役場から少し離れたところに、「子ども発達支援センター」があります。通称キラキラクラブ。指導主事がセンター長を務めており、４名の専門指導員が常駐しております。外部から講師としてドクターや作業療法士の先生にお出でいただくことも多く、今金・せたな両町のお子さん、保護者の方々にご利用いただいております。時々、アポなしで顔を出してみるのですが、大体対応中で、またこっそり帰る。そんな場合が多いです。安心。

そこから東側へ向かうと、順番に学童保育所、総合体育館、町民センター図書室、種川へき地保育所、そしてピリカ旧石器文化館があります。



「今金学童保育所」通称ルンルン子どもクラブ。学校教育係長が所長となり、４名の指導員、そして子育て応援隊（子育て経験を子育て支援活動、保育教育充実に役立ててくださる）の方々が文字通り応援してくださっております。一時１００名を数えた利用の子どもたちも、今現在は小１から４年までで８０名。それでもまだ、第１・第２学童と２カ所で運営をしております。

子どもたちは授業を終えた後、学童保育所に来て、宿題をやったり、本を読んだり、遊んだり。学校とはちょっと違う雰囲気の中で、活発になりすぎる場面もあるようですが、そこは子育てのベテラン揃いの指導員、応援隊。柔らかーく、時には毅然と。信頼しております。

そこからすぐのところにあるのが「今金町総合体育館・iCUBE」。昨年４月に新築オープンした町自慢の施設です。事務所には管理会社の方々と共に社会教育グループの社教主事１名が常駐。彼女は走り幅跳びの元全道チャンピオンです。日常の施設開放と共に、i・フィットなどのエアロ・体幹・ストレッチ教室等も開催しております。ちなみに社会教育グループにはボクシングウエルター級の元全道チャンピオンも。頼もしい。

国道沿いには「町民センター図書室」が。常駐の司書は１名ですが、ここには時々、絵本セラピストの職員や窓口対応、蔵書管理対応で何名かの職員がいることがあります。白をベースにした明るい空間、心地よい BGM。この夏からはエアコンも入りました。道立図書館と繋いで、調べ物もしてくれます。居心地良いですよ。

国道を種川まで進むと「種川へき地保育所」があります。実は所長は種川小学校長。３名の保育士と子育て応援隊で運営しております。極小規模のアットホームな雰囲気。



国道をさらに進み、美利河ダムを過ぎて左手に曲がると「ピリカ旧石器文化館」があります。館長は私ですが、実際に管理・運営しているのは事務員として職員１名、そして学芸員の社会教育グループ主幹です。

一帯は国の指定・ピリカ遺跡（National Historic Site Pirika）。１９７８年（S ５３）美利河ダム建設に着工した際に発掘された石器がきっかけとなり、１９８３・８４年（S ５８・５９）には北海道埋蔵文化財センターが発掘調査に当たりました。実は私、大学３年の時にこのダム工事現場を通っています。本当に土の道。ドスンと車が腹を打ったのを覚えています。場所的には今の国道の堰堤沿いの下り辺り。５号線に向かっていました。調査の年ですね。縁かな。

その後、今金町教育委員会、國學院大學文学部の調査発掘作業を経て旧石器文化館のオープンは２００３年（H １５）。文化館付近２０万㎡に眠る旧石器遺跡のうち、発掘されたのは、まだ１％という貴重な文化財です。施設もたいへん綺麗です。詳しいことは町のホームページやうちの主幹にお尋ねください。

北海道は本州に比べて歴史が浅いとイメージされがちですが、今から２万年前の大規模遺跡群がこの今金町にあるという事実。その存在だけでも胸が高鳴りますし、この先の文化財保護への姿勢が自分にも問われているということを自覚させられる、元地理教師でした。

教育委員リレーエッセイ

『天国の恩師へ感謝』

今金町教育委員　　小野　嘉代子

2020 年 1 月 1 日。

オリンピックイヤーとなる年を迎え、今年は活気あふれる日本になるであろうと感じた年のスタートでした。

そんな朝、一本の電話が。

娘が部活でお世話になった恩師の訃報でした。

信じられず、信じたくなく、嘘であって欲しいという思いばかりが頭をよぎり、何も手につかず・・・

でも、現実でした。



先生にお世話になった、生徒たちはどれだけいるだろうか？

今金町だけでなく、檜山にはお世話になった生徒たちがたくさんいるはずです。



楽しいときは一緒に笑ってくれ
嬉しいときは一緒に喜んでくれ
辛いときは一緒に泣いてくれ
悲しいときは励ましてくれ
元気が出ないときは、笑わせてくれ
そして
ダメな時は、本気で叱ってくれた

そんな先生と出会えた生徒たちは、幸せだったと思います。

早いもので、あれから 7 か月が過ぎました。

先生の事ですから、きっと今も天国から、右手にバスケットボール、左手に大好きなお菓子を持って教え子達を見守ってくれていることでしょう。

今、空を見上げて「先生！ありがとう！！」と叫び、エールと感謝をおくりたい。

